



NHO Shibukawa Medical Center

ウイズ

— No.85 —

平成 29 年 1 月 (2017年)

編集発行

独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター

電話 0279-23-1010

FAX 0279-23-1011

E-mail:shibukawamc@hosp.go.jp

http://www.hosp.go.jp/~shibukawamc/

渋川医療センター 広報誌



平成28年4月に国立病院機構渋川医療センターとして発足し、初めての新春を迎えます。
今後とも地域医療に貢献して参りますので本年もどうぞよろしくお願いいたします。

基本理念

北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携しその役割を果たします。

基本方針

1. 患者さんの気持ちに寄り添った医療を実践します。
2. 十分な情報を提供し、共に考える医療を行います。
3. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として社会に貢献します。
4. 地域医療支援病院として、救急医療を含め地域の医療機関と連携し地域医療に貢献します。
5. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します。
6. 教育・研究事業に積極的に取り組み、質の高い医療を常に目指します。
7. 良質な医療を継続的に確保するため、健全な経営と適正な運営に努めます。

目次

年頭挨拶	1
渋川地区医師会～地域医療連携セミナー～を開催しました!!	2
『渋川医療センター開院記念講演会』を開催して	3
「さくら Café」始めました。	4
「渋川医療センター院外啓発活動」を実施	5
「第1回連携協力医大会」を開催しました	7
第19回市民公開セミナーを開催して	8
第13回北毛外傷セミナーを開催	9
職員互助会忘年会	10
渋川市小中学校 PTA 連絡協議会母親委員会の視察が行われました	11
渋川医療センター クリスマス会	12

シリーズ

●重症心身障害病棟だより	13
●患者さんにとって耳寄りな情報「マスクの使い方」について	14
●我が家のアイドル/私の趣味	14
●外来診療担当医表	15
●セカンドオピニオン担当表	17

年 頭 挨拶

地域に期待される病院を目指して



国立病院機構渋川医療センター 院長 齋藤 龍生

新年明けましておめでとうございます。今年は職員一同新たな気持ちで新年を迎えております。

国立病院機構渋川医療センターは、群馬県地域医療再生計画に基づき国立病院機構西群馬病院と渋川市立渋川総合病院が統合し、北毛地域の基幹病院として昨年4月に開院致しました。県内を貫く大動脈国道17号線沿いに、地上7階地下1階建て免震構造で建設され、病床数は450床、災害拠点病院としてのヘリポートを備えております。当センターの診療機能は、西群馬病院が有していた地域がん診療連携拠点病院・緩和ケア医療・結核医療・重症心身障害児の療育医療・地域医療支援病院に加えて、渋川総合病院が有していた救急医療・災害拠点病院・第二種感染症指定医療機関などの診療機能を一層強化したものとなっております。一般の方々を対象とした内覧会には5,500人ももの地域の方々にご参加いただき、改めて地域における期待の大きさに気が引き締まる思いを致しました。

新病院では常勤医師は44名（非常勤医師39名）となり、診療科は13科より25科と充実し、職員の確保も順調に進みました。新病院では西群馬病院に比し、月平均紹介患者さんが5.4倍、手術例は2.8倍、外来患者数は2.3倍、救急患者数は6.3倍と急増し、7月には単月の医業収支率が100%を達成することができました。8月には急性期一般の患者さんの増加に伴い7：1がん専門病院入院基本料から7：1一般病棟入院基本料に施設基準を変更致しました。9月には開院時休棟していました5階東病棟も開棟し、順調に新年を迎えることができました。地域の先生方のお力添えの賜と改めてお礼を申し上げます。まだまだ患者さんへの対応・地域の先生方への対応では改善すべき点が多々あることとしますので、忌憚ないご意見を引き続き賜りたいと思います。

新病院での医療機器整備としては、IMRT(強度変調放射線治療)、VMAT(強度変調回転照射)、SBRT(体幹部定位放射線治療)、アブチェス(呼吸同期)の機能を有する高精度放射線治療機器(ELEKTA社VersaHD：本邦2台目)を導入し、更に北毛地区唯一の3.0T高磁場強度のMRI装置、3次元再構成画像とIVR(ガイド下での侵襲的手技)が可能なマルチスライスCT、最新の3D乳房撮影装置、新型血管造影X線断層装置など大型の最新医療機器を導入致しました。共同利用を進めておりますので、ご利用頂きますようお願い申し上げます。

職員一同地域に期待される役割を果たせるように日々精進致して参りますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

渋川地区医師会～地域医療連携セミナー～ を開催しました!!

副院長 蒔田 富士雄

去る平成28年9月14日（水）の19時より、「第1回渋川地区医師会地域医療連携セミナー」を当センター大会議室にて開催しました。本セミナーは、渋川地区又はその近隣における病診連携の強化と地域の医療の発展に寄与するために発足した「渋川地区医師会渋川医療センター合同研究会」の主催で行われ、本年度から年3回（本年度は2回）、学術講演会や症例検討会を開催することになっています。第1回目のテーマは「渋川医療センターの外科治療」ということで、当センターの渥實潤（あつみ じゅん）



高橋脳神経外科部長



田村泌尿器科部長

呼吸器外科医師が「気胸の治療と胸腔鏡下手術」、吉成大介（よしなり だいすけ）消化器外科医長が「胃がん・大腸がんに対する腹腔鏡下手術」、高橋章夫（たかはし あきお）脳神経外科部長が「てんかん外科のお話」、田村芳美（たむら よしみ）泌尿器科部長が「北毛地域で施行可能となった泌尿器科疾患の診断・治療について」と題して講演を行いました。当日は院外から39名の医師や歯科医師、薬剤師などの方々がご参加下さり、院内から参加の39名の職員を併せて

78名の参加をいただき、盛会となりました。ご出席いただきました先生方には御礼申し上げます。次回は、平成29年2月15日（水）に「化学療法」をテーマに第2回目を開催する予定でございます。詳細は後日改めてご案内いたしますが、日程のご調整をいただき、是非ご出席されますようお願い申し上げます。



講演会の様子



『渋川医療センター開院記念講演会』を開催して

化学療法部長 **富澤 由雄**

平成28年10月17日に群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学 教授 山田正信先生を当センターにお招きいたしまして、開院記念講演会を開催いたしました。近年の医学の進歩により、がん薬物療法として免疫療法が行われるようになってきました。今までのがん薬物療法は、いわゆる「抗がん剤」やがん細胞を狙い撃ちするような「分子標的治療薬」が使われており、それらの副作用は、前者は血球低下、嘔吐、脱毛などで、後者は肺炎、皮疹、下痢などが主なものであり、それらの対策を講ずることが重要でした。がん免疫療法は、体の免疫細胞を活性化させることによってがん細胞を攻撃する治療であるため、免疫過剰反応による全身の様々な副作用が起こることがあります。その中の一つとして、糖尿病、甲状腺機能亢進症・低下症、下垂体機能低下症などの内分泌代謝疾患があります。



群馬大学大学院医学系研究科
病態制御内科学 教授 山田 正信先生

山田正信教授の御専門はその内分泌代謝学でありますので、「免疫チェックポイント阻害薬治療に際して知っておくべき内分泌代謝疾患」と題して、がん免疫療法を行う上で必要不可欠な内分泌代謝学の講義を行っていただいたという次第です。参加者は渋川医療センターの医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・栄養士・理学療法士・事務職員など多職種から多数の方が参加し、また群馬県医師会 副会長 川島崇先生、渋川地区医師会 会長 川島理先生をはじめ院外からは渋川地区医師会及び群馬大学医学部附属病院の医師の方も多数参加され、盛大かつ有意義な講演会を開催することができました。講演の内容は、参加者全員が理解できるように内分泌代謝学の基本的な知識の整理から始まり、内分泌代謝疾患の病態を詳しく解説していただき、そして悪性黒色腫や肺がんに対して免疫療法で行ったときに発生した下垂体機能不全や甲状腺機能異常の具体的な例とそれらが起こった時の対処法をお話ししていただきました。更には免疫療法の副作用を通して、内分泌代謝疾患が起こるメカニズムを科学的に検討するというアカデミックな話もいただきました。がん免疫療法を行う上では、腫瘍学を専門にする医療スタッフと内分泌代謝学などの各種疾患の専門医とコメディカルが協力し、渋川医療センターを中心とした地域全体でのチーム医療を構築することが大切であると考えます。



講演会の様子

全や甲状腺機能異常の具体的な例とそれらが起こった時の対処法をお話ししていただきました。更には免疫療法の副作用を通して、内分泌代謝疾患が起こるメカニズムを科学的に検討するというアカデミックな話もいただきました。がん免疫療法を行う上では、腫瘍学を専門にする医療スタッフと内分泌代謝学などの各種疾患の専門医とコメディカルが協力し、渋川医療センターを中心とした地域全体でのチーム医療を構築することが大切であると考えます。



「さくらCafé」始めました。

栄養管理室 栄養士 西脇 千里

平成28年10月18日（火）、緩和ケア病棟にて「さくらCafé」という名の病棟カフェを新しく始めました。「さくらCafé」と名付けた理由は、病棟から見える桜の木が、渋川医療センター近くにある白井宿の桜並木とつながるように植えられていることが由来です。



始めるきっかけとなったのは、患者さんから「ドリップで淹れたコーヒーが飲みたい。」という希望があったからでした。「さくらCafé」を始めるまでは、緩和ケア病棟では平日15時におやつと緑茶の提供を行っており、緑茶以外の飲み物の提供は行っていませんでした。

そこで、入院中でも喫茶店やカフェのように、香りや飲み物を楽しむ癒しの空間を患者さんと一緒に共有したいと思い、おやつの提供時にコーヒーや紅茶など選んでいただけるようなサービスを考えました。



第1回目の「さくらCafé」では、コーヒー・レモンティー・ミルクティー・緑茶などを11名の患者さんへ提供することが出来ました。普段は白衣で病棟を訪問しますが、当日は写真のように「さくらCafé」の名前にちなみ、さくら色のシャツを着て、カフェ店員の雰囲気を演出



しました。患者さんからは「服装を変えていただいて、喫茶店のような雰囲気を作っただけで嬉しかった。」「おかわりしたいぐらい美味しかった。」「部屋がしばらくコーヒーの良い香りに包まれていてよかったです。」などの嬉しいご感想を多

くいただきました。引き続き、患者さんと共に「さくらCafé」を月に1度行っていきたいと思います。

今後も栄養管理室一同、患者さんの気持ちに応える、心のこもった調理やサービスの提供に努めていきます。



「渋川医療センター院外啓発活動」を実施

道の駅こもち 施設案内所で行った啓発活動

啓発活動委員長 蜂須賀 純子



イベント会場はこちらです

群馬県民の日に合わせて、平成 28 年 10 月 28 日（金曜日）に道の駅「こもち」において、看護師、管理栄養士が健康測定・健康相談を行いました。今回は渋川市の皆様だけでなく、群馬県民の皆様、道路を利用する方々も含め幅広い方の健康の維持増進を目的に開催しました。

当日はあいにくの天候でしたが、道の駅に買い物に来られた方、施設案内所を訪れた方、渋川広報やお知らせなど見た方など 142 名の参加となりました。来場された方からは「血管年齢は初めてでおもしろかった。今後気をつけます。」「また開催してほしい。」「とても良かった。又参加したい。」などの感想が聞かれ、自分の測定結果を見て健康に対して関心が深まったようでした。皆様の感謝の言葉や嬉しそうな表情を見ることができ、この企画を実施し本当によかったと感じております。

今後も皆様のご期待に沿えるよう委員とともに頑張りたいと思います。

最後に今回の企画にご協力いただきました、関係者の皆様にも心よりお礼申し上げます。



道の駅 こもちにて…



道の駅 施設案内所にて健康測定

群馬県民の日イベント 栄養相談を行いました

栄養管理室長 比嘉 並誠

栄養相談のコーナーには、26 人（男性 7 人、女性 19 人）の方にお立ち寄りいただき、高血圧症をはじめ糖尿病や脂質異常症の食事療法についてアドバイスをしました。基本的には減塩やエネルギー制限の話が中心になりますが、中には太りたくても体重が増えない方や長年貧血で悩んでいる方もいて、相談内容も多種多様でした。市民の皆さまの健康増進について、管理栄養士として今後も啓発活動を続ける必要性を肌で感じた 1 日でした。



栄養に関する冊子 ご自由にどうぞ



栄養相談



健康相談を実施して

緩和ケア認定看護師 **生方 貴子**

健康相談は 15 名の方にご利用いただきました。こ



健康相談

もち道の駅ということで、渋川近郊にお住いの方の他、県外から旅行で立ち寄っていただいた方も健康相談をご利用いただきました。

糖尿病や高血圧症・がんなど、もともと医療機関を受診されている方の相談だけでなく、

健康診断の結果を持ってきて、相談をされた方、今以上に健康を増進するためにどのように生活したら良いのか、とのご相談もあり、皆様の健康への意識の高さを実感しました。

病院は病気やけがをした時だけでなく、さらに健康で元気に過ごせるようにご利用いただけたらと思います。

医師だけでなく、看護師や、栄養士、その他相談に応じる窓口が渋川医療センターにはございますので、お気軽にご利用いただきたいと思います。

人気が高い血管年齢測定

5東病棟看護師 **藤井 夕生**

健康測定では血管年齢測定、血圧測定を行いました。

小雨の降る寒い日にも関わらず買い物帰りの多くの方が来てくださいました。普段から健康に気を使っている方も多く、血圧測定を日課にされている方もいましたが、「血管年齢をしてみたい!」という要望がたくさんあり、老若男女を問わず多くの方が測定を行いました。



血管年齢測定

旅行途中に道の駅に立ち寄った方から、「これで安心して旅行できる。」という嬉しい言葉を頂きました。

道路を利用する幅広い方々が健康測定を通じて安心できると知り、役に立てたことを実感できました。

また、中には「どこの病院ですか?」と質問も聞かれ、地元地域の方だけでなく県外の方にも当院を知っていただく機会となりました。

今回は、イベントを通じて地元の方々の健康増進に関われた喜びを感じることができた充実した時間だったと思います。



集合写真

「第1回連携協力医大会」 を開催しました

地域医療連携室長 水澤 秀行

11月17日(木)19時より、アネーリ渋川にて「渋川医療センター」として第1回となる連携協力医大会を開催しました。(西群馬病院時代を含めると5回目)

今年は新病院開設に当たり、診療科も13科→25科に、医師を始め職員数も大幅に増えました。従来の登録医の先生方に加えて、新たにご登録いただいた先生方も多数ご参加いただき、当日の参加者は144名となりました。

当日の天候は晴れて、寒さもさほど厳しくなくホッとしました。記念すべき第1回の開催に当たり、事務局も入念な準備と打ち合わせを重ねてきましたが、それでも準備不足がないか、気の抜けない緊張感の中での2時間だったのを思い出します。

さて、会は定刻どおり、患者相談支援センター長である棚橋特命副院長の開会挨拶に始まり、第1部は新設診療科7科(総合診療科(阿久澤医長)、脳神経外科(高橋部長)、皮膚科(山中医長)、泌尿器科(田村部長)、眼科(袖山医長)、放射線診断科(小山部長)、放射線治療科(中村部長))による紹介を行いました。

引き続き、メインの第2部を始めるに当たり、斎藤院長の挨拶を皮切りに、川島 理 渋川地区医師会会長、石田 覚也 渋川北群馬歯科医師会会長よりご挨拶を賜りました。続いて、田中 義 前橋市医師会会長、藤塚 勲 沼田利根医師会会長、櫻井 慶一 吾妻郡医師会会長をご紹介させていただき、横江特任院長補佐の乾杯で意見交換会が始まりました。

年に一度の開催ということもあり、お集まりの皆さまは終始和やかにご歓談いただけただけ印象でした。閉会の時間となり、副患者相談支援センター長である渡邊統括診療部長の挨拶で締め、障害者就労継続支援事業所の手作りお菓子をご参加いただいた先生方にお渡しし、職員一同でお見送りして無事閉会となりました。

来年は、今後新たに登録医となられる先生方もご参加いただき、更に規模の大きな会にしたいと思います。この連携協力医大会を通じて、今後も当院の基本理念である「北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たします」を実践し続けたいと思います。



開会ご挨拶
(棚橋患者相談支援センター長)



新設診療科紹介の一コマ
(田村泌尿器科部長)



第2部意見交換会ご挨拶
(斎藤院長)



来賓ご挨拶
(川島理渋川地区医師会会長)



来賓ご挨拶
(石田覚也渋川北群馬歯科医師会会長)



乾杯ご発声
(横江特任院長補佐)



終始和やかな雰囲気でも話も弾んでいました。



閉会ご挨拶
(渡邊副患者相談支援センター長)

第19回 市民公開セミナー を開催して



管理課長 竹下 秀之



がん診療連携拠点病院機能強化事業の一環として、11月19日（土）に第19回市民公開セミナーを渋川医療センターで開催しました。

今回は「渋川医療センターでできるがん診療 Part II」をテーマに、第1部を健康測定・がん相談・健康相談を、第2部を講演会として放射線治療部長松浦先生による「渋川医療センターにおける放射線治療について」を、もう一演題をがん薬物療法薬剤師新行内主任薬剤師による「抗がん剤薬を支えるのは…」をそれぞれ講演してもらいました。

第1部の健康測定は、すべての参加者に何かの測定を実施できるよう、1人1測定の徹底をお願いしました。例年通り骨密度測定は人気があり、受付票配布後10分程度で定員に達してしまいました。その他、「動脈硬化測定」「肺年齢測定」なども人気があり、測定結果と自分の年齢を比べて一喜一憂している方も多くおられました。



がん診療連携拠点病院機能強化事業の一環として、11月19日（土）に第19回市民公開

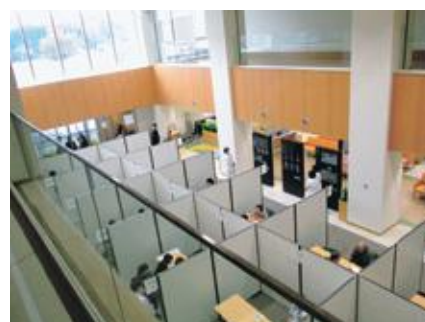
また、「アロマケア」を体験された方からは「からだが温まりました。」との言葉をいただきました。

がん相談ブースでは肺がん、血液がん、消化器がん、乳がんに関する問い合わせに、担当医師から丁寧

な説明を差し上げました。また、栄養、リハビリ、薬剤、医療相談、放射線、検査、看護の相談も多くの方に利用いただきました。

第2部の講演会では松浦先生より、当院が誇る放射線治療機器でできるIMRT（強度変調放射線治療）やVMAT（回転型強度変調放射線治療）について説明いただきました。また新行内主任薬剤師の説明の中に、演題にちなんだ当院を支える免震ゴムの写真がアップされると、会場から感嘆の声が上がりました。

今回初めて病院内にブースを設置し、健康測定やがん相談を行いました。受付位置や整理券配布のタイミングなど、今後検討していかなければならない課題も多くあがりました。地域のみなさんにさらに喜んでいただける市民公開セミナーを開催できるよう、企画を考えていきたいと思いました。



第13回 北毛外傷セミナーを開催

特任院長補佐 **横江 隆夫**

11月27日（日）に北毛外傷セミナー（JPTEC：病院前外傷初期診療）プロバイダーコースと更新コースが当院で開催されました。渋川地区では13回目で、当院では初めての開催です。交通



事故や様々な原因による外傷患者に受傷後早期に適切な処置・治療を開始して救命するために考案されたのがJPTEC講習会で、迅速に外傷患者の重症度や外傷の範囲を評価しながら、病態を悪化させない処置を行い、治療が行える適切な施設に搬送するための教育システムです。

プロバイダーコースの受講生は、

救急救命士・消防士4名、医師3名、看護師6名、群馬県警の警察官10名でした。更新コースの受講生は主に救急隊員で22名でした。インストラクターは県内外からの救急救命士、消防士、医師、看護師がボランティアで行っています。講義は少なく、適切な処置ができるよう実際のいろいろなケースを想定して繰り返し指導が行われました。交通事故の際の車外救出訓練も行われました。1日の講習を終え受講者全員が合格しました。外傷患者の救命率向上に大きく貢献できるものと期待されます。



職員互助会忘年会

管理課長 竹下 秀之

恒例となりました忘年会が、平成28年12月8日（木）19：00より開催されました。今年は渋川医療センターとなって初めての忘年会であり、総勢177名と過去最高の参加者数となりました。

斎藤先生の「できる限り皆さんに注いで廻りたい」というあいさつ



の後、大きな杯を持った横江先生の乾杯の発声とともに大宴会が始まりました。日頃お世話になっている先輩や上司の方にあいさつして回る人、豪華な食事に舌鼓を打つ人などなど、皆さん思い思いに楽しんでいました。

かく言う私も、隣同士になった子どものような看護師さんとおしゃべりを楽しみ、若い事務職員を売り込んできました。（残念ながら彼氏がいるそうです…）



演会も中盤を過ぎ、これも恒例のビンゴ大会が始まりました。番号が読み上げられる度、一喜一憂する中、ディズニーランドペアチケットをゲットしたのは、庶務班長でした。（よかったね。）また、ビンゴ大会で司会や機器操作をしていた



いただいた小山放射線診断部長、鈎持理学療法士長、高井看護師の3人にはこの場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

大広間での宴会が終わると、場所を変えての2次会がスタートしました。普段は会議室として使用している場所に、円卓、いす、カラオケ装置を持ち込み、即席の宴会場を作ってもらいました。予想以上に居心地が良かったのか、全て終了したときは午前1時を回っていました。

今回の忘年会で特筆すべきことは、会場をホテル天坊に変えたことでした。7月頃から交渉を重ねできる限り豪華にかつ安くしてもらい



ました。伊香保独特の温泉ではなかったのは残念でしたが、広くきれいな大浴場や露天風呂、朝食のバイキングなど満足していただけた方も多かつ



たのではないかと考えております。来年もまた、職員の皆さんに喜んでいただけるような忘年会を計画したいと思います。

渋川市小中学校PTA連絡協議会母親委員会の視察が行われました

「かからない・うつさない」ための感染予防と対策 ～ポイント!! 手洗い方法と隙間をつくらないマスクのつけ方～

感染管理認定看護師 倉澤 幸

平成28年12月13日（火）渋川市小中学校PTA連絡協議会母親委員による視察研修が行われ20名の方々の参加がありました。

最初に、冬季に流行するインフルエンザや感染性胃腸炎（ノロウイルス）の感染予防と対策について講習を感染管理認定看護師が行い、病気の特徴に加え、感染を予防するための具体的方法をお知らせしました。誰もが知っている感染予防の基本である手洗いやマスクのつけ方について「正しい方法とポイント」を写真などを用いて説明しました。

手洗いのポイントでは洗い残しの多い場所（指先、指の間、親指）を示し、「30秒以上の時間をかけてじっくり、念入りに」が大切であることを伝えました。



講習の後は、病棟や外来の視察見学を行いました。

感染予防についてはマスクの正しいつけ方を試していたり、細かな点をメモしていたり、参加者から「マスクのつけ方や具体的方法、注意点がわかりやすかった」「家に帰って家族にも話してみたい」「今までのマスクのつけ方よりフィットするようになる」などの感想が聞かれ、短い時間ではありましたが、身近な感染予防について興味を持っていただくことができ、その大切さを啓発できる機会となりました。

マスクのつけ方ポイント



顔とマスクの間に
隙間をつくらない

渋川医療センター クリスマス会

～X'mas event in Shibukawa Medical Center～



ボランティア委員会 MSW 尾方 仁

平成28年12月16日（金）午後、渋川医療センター開院後初となる「クリスマス会」を開催いたしました。西群馬病院時代も行っていましたが、新病院では初めてとなります。企画はボランティア委員会が中心となり、出演者もすべてボランティアで参加して頂きました。



開会のあいさつ（横江特任院長補佐）



あいことば

う斬新な演出で楽しませていただきました。

メインゲストの繋ぎには、当渋川医療センターが誇るヴァイオリニスト2名（薬剤師・看護師）とピアニスト1名（MSW）による“バイオリン二重奏・ピアノ伴奏付”をご披露させていただきました。ほんの数回しか音合わせしていないのに、素晴らしい演奏を披露してくれたことに感動!!でした。

最後を飾る「渋川混声合唱団」は、今年で団創設70周年を迎えるという、市民合唱団としては全国的にも類をみない歴史ある合唱団で、秋には渋川市民会館にて70周年記念コンサートを開催され、歴史と実力に裏打ちされた素晴らしい歌声を聴かせていただき、会場の皆さん全員で「ふるさと」を合唱し締めくくっていただきました。



渋川混声合唱団

今回は「あいことば（沼田キリスト聖書館）」による紙芝居とハンドベル演奏、職員によるバイオリンとピアノ演奏、「渋川混声合唱団」による合唱の3部作で開催しました。

「あいことば」とは、教会に集う方々が今回当院で活動されるにあたり“愛の言葉”をイメージしてグループ名をつけられたと伺っております。大きな紙芝居にハンドベルの音色を乗せ、クリスマスのルーツを物語るという



職員による演奏



閉会のあいさつ（蒔田副院長）

患者さんやご家族にも多数参加していただき、短い時間ではありましたが闘病の苦しみを一瞬でも忘れていただけたのであれば幸いに存じます。

今回、新エントランスホールで第1回目ということもあり、手探りの状態で準備してきましたが、ボランティアの皆様・職員の方々の多大なご協力により何とか無事に終了することができました。今後も患者さんの療養環境向上のための活動を考えていきたいと思っております。

本日ご協力いただきました全ての方々に心より御礼申し上げます。



重症心身障害病棟だより

秋まつり

～ご家族やボランティアと共にふれあった行事～

療育指導室 保育士 田村 達也

重症心身障害病棟では、これまで毎年恒例の季節行事として10月に屋外で「病棟祭」を催してきました。今年度より新病院に移転し屋外での実施が難しくなったため、名称を改め「秋まつり」として10月14日に実施しました。

前半は七五三のお祝いと病棟対抗の運動会の2部構成で行いました。七五三のお祝いでは対象の4名の方に対して着物や制作した袴などを着てもらい、花のブーケを記念品贈呈として贈ることができました。病棟対抗の運動会では「玉入れ」を行いました。利用者の方々やご家族、ボランティアが一体となり職員が背負った籠の中にクッションボールを一生懸命協力しながら入



れる様子が印象的でした。また、「風船運び」では全長1メートル近くある風船を「どちらの病棟が全員早く触れられるか」と競いました。ご家族、ボランティアからは「こっちはまだ触ってないよ」「となりの病棟の方が早いよ」など活気溢れる言葉で会場が賑わいました。後半は3階フロア全体を使用したウォークラリーで楽しい時間を過ごすことが出来ました。



ウォークラリーは、野菜をピンに模した「野菜ポウリング」、地面に見立てた箱から紐を引っ張って取り出す「芋掘り」、テントの支柱に網を張り目線の高さに疑似の果物を下げて収穫する「果物狩り」、れんこん、さつまいもなどの季節の野菜を使用して行った「野菜スタンプ」など季節を感じられる内容を実施しました。また、ボランティアによるハーモニカ演奏が好評で秋の童謡や昭和の歌謡曲を中心に演奏をして頂きました。美しい音色に利用者の方々をはじめ、ご家族のみなさまも足を止めて聞き入る様子が見受けられました。今後も利用者の方々、ご家族、ボランティア、職員など参加者全員が楽しんでもらえるような内容を考え、実施していきたいと思っております。



—患者さんにとって耳よりな情報—

今回は「マスクの使い方」について

感染予防のコツをおさえましょう！

—「かからない・うつさない」ための感染予防—

感染管理認定看護師・副看護師長 倉澤 幸

誰もが知っている手洗いやマスクを着けるといった感染予防を実施していても、風邪やインフルエンザにかかってしまうことがあります。「感染予防の対策を実施していても意味はないのでしょうか?」と、不安になることがあるかもしれません。感染予防の基本である“正しい”手洗いやマスクの使い方のコツをまとめました。

なぜ、手洗いは大事なのでしょう?

病気を引き起こす感染症の大部分は“手”を介してウイルスなどが体の中に入ることが多いと言われています。インフルエンザの流行時期には、不特定多数の人が触れるドアノブなど、ウイルスが付着しています。そういった場所を触った手で、自分の鼻や口に触れることで、ウイルスが体内に侵入してきます。色々な感染症から身を守るためには、手を介した感染を防ぐため「手洗い」がとても大切です。手洗いは、帰宅時や食事前だけでなく、共有の場所(電車のつり革やパソコン、トイレのドアなど)といった不特定多数の人が触るものに触れた後は、いつも以上に正しい手洗いを行うことが大切です。

正しい手洗い方法のコツ!



- ① 手洗い時間は15秒以上をかける
- ② 指先、手の甲、親指、指の間の洗い残ししやすい部分を忘れず実施
- ③ 石けんをしっかりとすすぎ落とす
- ④ 清潔なタオルで拭き取る



洗い残ししやすい場所

マスクで感染は防げるのでしょうか?

市販されているサージカルマスクのフィルターの効果には差があります。また、顔とマスクの間に隙間もできてしまいます。このため、サージカルマスクであっても外部からの感染を完全に予防することは難しいと言えます。ただし、咳やくしゃみをしている人が、何もしない状態では1~2mも飛ぶといわれる唾などを押さえる効果はあり、「人にうつさない」ためのマスク使用は大切です。

正しくマスクを使用するためのコツは、隙間をつくらず、フィットさせることです。

正しいマスクのつけ方のコツ!



- ・顔の大きさにあったマスクを選ぶ
- ・鼻~あごの下まできちんと覆う
- ・鼻のワイヤーを鼻のカーブに合わせる
- ・隙間がないことを確認する

マスク着用前後は手洗いをしましょう

我が家のアイドル



わが家の初孫、奏真君です。1歳の記念にかっこよくオシャレしました。音楽が大好きで、身体全体をゆらしリズムをとってます。犬のココちゃんと大の仲良し、来年5月にはお兄ちゃんになります。【看護師 1さん】

※このコーナーは職員の家庭のアイドルを紹介しています。

私の趣味・ペット・自慢

【私の趣味・自慢】

今回は飛行機の窓からとらえた富士山の写真をお届けします。

私、子供のころから電車、飛行機など大好きです。

2016年は飛行機に興味の対象を絞って行動しました。羽田空港の整備工場も見学しました。感動でした。短期間で飛行機に集中的に搭乗する旅行も挑戦しました。ちょっと疲れました。

そんな安全・快適な空の旅を終えて家路につくと私達も安全な医療の提供に努めなければという思いを強くします。【放射線科 Yさん】



※このコーナーは職員の趣味などの紹介コーナーです。



渋川医療センター外来診療担当医表

	時間帯	月	火	水	木	金
総合診療内科	午前	アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋
	午後	アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋 (予約)		アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋 (予約)		アクサフ ノブヒロ 阿久澤 暢洋 (予約)
呼吸器内科 1	午前	オオサキ タカシ 大崎 隆	イシジマ ヒロノブ 飯島 浩宣		トミザワ ヨシオ 富澤 由雄	クワコ トモヒト 桑子 智人
	午後					
呼吸器内科 2	午前	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	オチアイ マイ 落合 麻衣	ツチヤ ユキコ 土屋 友規子	サクライ レイコ 櫻井 麗子 (群大)	ワタナベ サトル 渡邊 寛
	午後					
呼吸器内科 3	午前	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	サワダ ユリ 澤田 友里 (群大)	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	マスダ トモミ 増田 友美 (群大)	
	午後					
循環器内科	午前	ヤマギシ トシハル 山岸 敏治	ヤマギシ トシハル 山岸 敏治	ヤマギシ トシハル 山岸 敏治		ヤマギシ トシハル 山岸 敏治
	午後		※ 岩崎 俊弥 (北関東循環器)		※ 熊倉 久夫 クマクラ ヒサオ ※ 中島 邦喜 ナカジマ クニキ (北関東循環器)	
内分泌・代謝内科 内 科	午前	カサイ ユウコ 笠井 裕子 (群大)			カワシマ チエコ 川島 智恵子 (内科)	マツモト シュンイチ 松本 俊一 (群大)
	午後	(内分泌・代謝内科)				(内分泌・代謝内科)
※ 小児科 (予約制)	午前		イシキタ ナオユキ 石北 直之 (重心)	イシキタ ナオユキ 石北 直之 (重心)	イシキタ ナオユキ 石北 直之 (重心)	
	午後			シミズ ノブノウ 清水 信三 (重心)		
血液内科 1	午前	イシカワ テツヤ 石川 哲也	イソダ アツシ 磯田 淳 (予約)	マツモト モリオ 松本 守生	マツモト モリオ 松本 守生	マツモト モリオ 松本 守生 (新患)
	午後		オガワ ヨシユキ 小川 孔幸 (群大) (第2・予約) 午後1:00~			
血液内科 2	午前	イソダ アツシ 磯田 淳	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里	イソダ アツシ 磯田 淳	
	午後					
血液内科 3	午前		サウムラ モリオ 澤村 守夫	イシカワ テツヤ 石川 哲也	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里 (予約)	
	午後			イシカワ テツヤ 石川 哲也 (予約)		
消化器内科 1	午前	ナガジマ ヨシミ 中島 良実 (群大)	ナガシマ タモン 長島 多聞	ヤマザキ コウイチ 山崎 勇一 (群大)	アライ ヨウスケ 新井 洋佑	フルヤ ケンスケ 古谷 健介
	午後					
消化器内科 2	午前				カキザキ サトル 柿崎 暁 (群大) (第2・4)	
	午後					
緩和ケア科 (予約制)	午前					
	午後	コバヤシ ゴウ 小林 剛		コヤ ヒロコ 小屋 紘子	コヤ ヒロコ 小屋 紘子	コバヤシ ゴウ 小林 剛
精神腫瘍科 (予約制)	午前					
	午後	マヅマ タケヒコ 間島 竹彦			マヅマ タケヒコ 間島 竹彦	
放射線治療科 (予約制)	午前	マツウラ マサナ 松浦 正名	イマエダ マスミ 今枝 真澄	ナカムラ ユウジ 中村 勇司	マツウラ マサナ 松浦 正名	イマエダ マスミ 今枝 真澄
	午後	マツウラ マサナ 松浦 正名	ナカムラ ユウジ 中村 勇司	ナカムラ ユウジ 中村 勇司	マツウラ マサナ 松浦 正名	ナカムラ ユウジ 中村 勇司

外来受付時間 ●午前受付 8時30分～11時00分 ●午後受付 12時30分～15時00分

※担当医が変更になる場合もございますので、事前に電話でご確認ください。

※(予約)と記載がある場合は、予約患者さんごとのみの診療となります。

※小児科は、重症心身障害児(者)のみの予約診療となります。

※耳鼻咽喉科は、坂倉浩一先生(群大)(第1・3・4・5月曜日午後2:00～)、近松一朗先生(群大)(第2月曜日午後2:00～)

	時間帯	月	火	水	木	金
外科 1 (消化器)	午前	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	ヨシナリ ダイスケ 吉成 大介	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文
	午後				スケガフ シンサク ※ 助川 晋作	
外科 2 (消化器)	午前		タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文		クラバヤシ マコト 倉林 誠	
	午後					
外科 3 (呼吸器)	午前	アツミ ジュン 渥 實 潤		カワシマ オサム 川島 修		カワシマ オサム 川島 修
	午後					
脳神経外科	午前	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司
	午後			ホリグチ ケイジ 堀口 桂志(群大) 午後2:00~		
整形外科 1	午前		イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一(群大)		ヤナガワ タカシ 柳川 天志(群大)	
	午後		イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一(群大・予約)		ヤナガワ タカシ 柳川 天志(群大・予約)	
整形外科 2	午前	カヤカベ マサトモ 加家壁 正知(予約)	カヤカベ マサトモ 加家壁 正知		カヤカベ マサトモ 加家壁 正知	
	午後					カヤカベ マサトモ 加家壁 正知(予約)
泌尿器科 1	午前	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美	オカベ カズヒコ 加藤 春雄	タムラ ヨシミ 田村 芳美	カトウ ハルオ 加藤 春雄
	午後	タムラ ヨシミ 田村 芳美(予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美(予約)	カトウ ハルオ 加藤 春雄	カトウ ハルオ 加藤 春雄(予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美(予約)
泌尿器科 2 (10:00まで)	午前	カトウ ハルオ 加藤 春雄	カトウ ハルオ 加藤 春雄	タムラ ヨシミ 田村 芳美	カトウ ハルオ 加藤 春雄	タムラ ヨシミ 田村 芳美
	午後					
耳鼻咽喉科	午前	サカクラ ヨウイチ ※ 坂倉 浩一 チカマツ カズアキ 近松 一朗 (群大)				
	午後					
皮膚科 1	午前	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義
	午後					
皮膚科 2	午前		サイトウ シンタロウ 斎藤 晋太郎 月2回(群大)			
	午後					
甲状腺科	午前	ヨコタ トオル 横田 徹	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコタ トオル 横田 徹		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午後			ヨコタ トオル 横田 徹(予約)		
乳腺科	午前	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコタ トオル 横田 徹	ヨコエ タカオ 横江 隆夫		ヨコタ トオル 横田 徹
	午後		ヨコタ トオル 横田 徹(予約)			ヨコタ トオル 横田 徹(予約)
眼科 1	午前	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健
	午後	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)	ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)		ソデヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)
眼科 2	午前				スズキ コウタ 鈴木 康太(群大)	
	午後					
麻酔科	午前		ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆			ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆
	午後					

※循環器内科は、山岸敏治先生(第1、3、5火曜日午前)

岩崎俊弥先生(北関東循環器病院)(第2、4火曜日午前)

熊倉久夫先生(北関東循環器病院)(第1、3、5木曜日午後2:00~)

中島邦喜先生(北関東循環器病院)(第2、4木曜日午後2:00~)

※泌尿器科は、岡部和彦先生(第1、3、5水曜日午前)、加藤春雄先生(第2、4水曜日午前)

※外科1(消化器)の助川晋作先生は肛門科・消化器外科です。(第1、3、5木曜日午後1:30~)

セカンドオピニオン担当表 (平成29年1月1日現在)

科 別	予約時間	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後2時～	—	富澤 由雄	—	—	—
	午後3時30分～	斎藤 龍生	—	斎藤 龍生	—	—
呼吸器外科	午前中	—	—	—	—	川島 修
血液内科	午後2時～	松本 守生	—	—	磯田 淳	—
乳腺・甲状腺外科	午後2時30分～	横江 隆夫 (午後～)	—	横田 徹	—	—
消化器外科	午前中	蒔田富士雄	—	—	小林 光伸	—
放射線科	午後3時～	—	—	松浦 正名	中村 勇司	—
緩和ケア科	午 後	小林 剛	—	—	—	小林 剛
皮膚科	午 後	—	—	—	山中 正義	—
泌尿器科	午後3時30分～	—	—	—	—	田村 芳美
脳神経外科	午 後	—	—	堀口 桂志	—	—

※対象者:原則として患者さん本人、患者さんの同意を得た家族 費用:30分毎に5,400円

※お問い合わせ先:TEL0279-23-0626 地域医療連携室(直通)

患者さんの権利

1. 最善の医療サービスを受ける権利
2. 人格・人権を尊重される権利
3. 知る権利
4. 自己決定権
5. プライバシーを保護される権利

がん相談支援センター

- がんに関するご相談は「がん相談支援センター」でお受けします。
担当:ソーシャルワーカー(尾方・山田・山浦・落合)
電話:0279-24-9229(直通)
(受付時間は平日8:30~17:15です)
- メールによるご相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail:shibukawamc@hosp.go.jp

看護の理念 患者さんの立場に立ち、心あたたかく、信頼に応える看護を提供します。

看護の基本方針

1. 患者さんの気持ちを大切に、思いやりとまごころ込めた看護を提供します。
2. 患者さんと共に考える看護の実践により患者さんが自ら意思決定が行えるよう支援します。
3. 地域の人々と連携を図ることで患者さんの生活の質の維持向上に努めます。
4. 患者さんの尊厳と権利を尊重した質の高い看護を提供します。
5. 看護の専門性を追求し、根拠に基づいた安全で安心な看護を提供します。

編集後記

渋川医療センターが開院して初めてのお正月を迎えました。去年はまさに激動の年でしたので、こうしてウィズ新年号を無事発刊できたことは非常に感慨深いものがあります。今後ますます誌面充実を図り、「いいね!」がたくさんもらえるよう頑張りたいと思います。(H・T)



独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター

〒377-0280 群馬県渋川市白井383番地 TEL 0279-23-1010 (代) FAX 0279-23-1011

<http://www.hosp.go.jp/~shibukawamc>